

平成30年度の障害者総合支援法、医療費の同時改正

長岡療育園 園長 小西 徹

超高齢者化社会／2025年問題を背景にした社会保障費の増大が問題視される中で、障害者総合支援法、医療費の同時改定が行われました。当初かなりの抑制／削減があるのではないかと危惧していたのですが、医療費はほぼ据え置きで影響は殆どなし、福祉報酬は+0.45%改定となり先ずは一安心といった所です。重症心身障害においては、入所支援は据え置き～微増（児）、通所・短期入所などの在宅支援はやや増で、入所<在宅，者<児の流れは相変わらずでした。この傾向は今後とも続くものと思われます。さて、+0.45%の中身ですが、支援法の制度内容は若干の新規支援が組み込まれたものの今までと殆ど変わらず、基本単価もそのまま（微増も若干ある）、「+」改定のほんの一部を占めるに留まります。そして、「+」改定の大半を占めるのが色んな支援に特別加算を付けたことによるものです。例えば、就労系支援に於いては支払い賃金、一般就業率、資格取得率などが高い施設に加算を付ける等、支援の実績内容（支援の質）を加味した報酬体系に様変わりしました。我々の重症児者支援に於いても、重度障害例を多く受け入れ看護師等の専門職を追加配置している施設に加算を付けるなど、これも実施内容に踏み込んだ報酬体系であると思ひます。支援内容／支援の質によって報酬に差を付けることは当たり前の様には思われます（成果主義的考え）。しかし、加算を取る条件設定が余りにも複雑でハードルが且高いのも事実です（加算を取れる施設は一部に留まる可能性がある）。4月1日からこの報酬体系が始まっているのですが、施設サイドも行政サイドもその対応に右往左往しているのが現状です。複雑な特別加算を付けての「+」改定ではなく、単純に基本報酬の「+」改定であつて欲しかった所です。当園は入所支援+在宅支援を幅広く展開し、且、手厚く濃厚な支援を実施しているつもりですが、残念ながら「+」改定の恩恵はほんの一部に限られます。でも、取りあえずは、基本単価の若干の微増でも十分に今まで通りの支援は可能ですのでご安心下さい。

今後とも重症児者の医療・療育+QOL向上のために更なる努力を重ねるべく頑張っていまひます。ご理解とご協力の程よろしくお願ひ致します。

平成30年度 運営方針と事業計画

1. 運営方針

新潟県における重症心身障害児・者の中核施設として、

- (1) 障害者総合支援法の理念に沿い、施設のみならず地域医療・福祉の推進を目指す。
- (2) 医療的レベルの質的向上に努め、各専門領域の組織的統合を目指す。
- (3) 理論的根拠に基づく医療と療育を展開し、利用者の生活の質（QOL）の向上を目指す。

2. 重点項目と事業計画

(1) 施設入所支援の充実

- ア. 充実した個別支援計画に沿った療育活動と医療を提供
- イ. 継続的に準・超重症心身障害児者の積極的な受入れに努める。

(2) 外来診療の充実

- ア. 新潟県内の各地から訪れる、多様な発達障害児者を専門医により診察
- イ. 外来利用者に対して理学・作業・言語の各リハビリテーションプログラムを提供

(3) 地域在宅支援の推進

- ア. 在宅重症心身障害児者の為に、医療型短期入所20床と、緊急入院5床の有効活用を図る。
- イ. 通所3事業（通園センター、ケアステーション魚沼・県央）の利用拡大に努め、地域に即した、在宅支援を展開する。
- ウ. 十日町地区への冬期出張リハビリを継続実施する。
- エ. 在宅重症心身障害児者の生活を守る為、訪問看護、居宅介護、相談支援等を充実強化する。
- オ. 医療的ケア児への対応を行う。

(4) 人材の育成 と確保

- ア. 研修委員会を中心に、計画的かつ業務に有効な園内研修の実施に努る。
- イ. 業務に役立つ専門的な知識・技術・情報を習得する為の研修、全国規模の研究発表会に、目的を持って積極的に参加し、重症心身障害児者施設職員としての資質の向上を目指す。
- ウ. 認定看護師、崇徳厚生事業団の介護者研修への参加。介護福祉士資格等利用者へのサービスに還元できる資格取得を推奨
- エ. 病院運営に必要な医療スタッフを継続的に雇用する。

(5) 「家族会」および「守る会」との連携を強化し、利用者本位の施設運営を目指す

- ア. 「長岡療育園家族会」およびその包括団体である「全国重症心身障害児者を守る会」主催の各種会議や行事・研修会・協議会等に積極的に参加し、連携を強化する。
- イ. 「全国重症心身障害児者を守る会」「家族会」の協力のもと、利用者本位の施設運営に努める。

(6) 地域への貢献

- ア. 専門分野の講師を招き、地域の方が参加できる発達講座を年2回開催
- イ. 巡回療育相談、外来療育教室を定期的実施
- ウ. 教員や学生の研修・実習を積極的に受入
- エ. 地域の方も参加した、花火大会、療育園祭、県央フェス等の催しを開催

(7) 長岡療育園創立40周年記念事業

- ア. 次年度の、創立40周年の記念講演、記念式典、記念誌の準備を行う。

平成29年度 事業実績概要

平成29年で創立38年をむかえた当園は、旧重症心身障害児者施設の最大の特徴である病院（医療の機能）と福祉施設（療育と生活の機能）という2つの機能を最大限に活かした事業展開を行っており、両機能の融和充実を図りつつ、入所サービスのみならず、在宅サービスの展開も積極的に行っている。今後も医療と福祉の両機能、入所と在宅のバランスをとりつつ、新潟県における「重症心身障害児者」の医療・福祉の中核施設としての自負と責任を担い、県内の重症心身障害児者とそのご家族の日常生活及び社会生活の向上を図る総合的な支援施設を目指していく。

1. 施設入所支援

(1) 医療的ケアの向上

① 超・準超重症心身障害児者の積極的な受入れ

現在入所者全体の約28%にあたる39名の超・準超重症心身障害児者が入所し、その割合は、確実に増加の傾向にある。これに対応すべく、平成29年度もスタッフの確保と人材育成、医療技術の向上に努めた。

② 緊急入院ベッド（5床）の活用

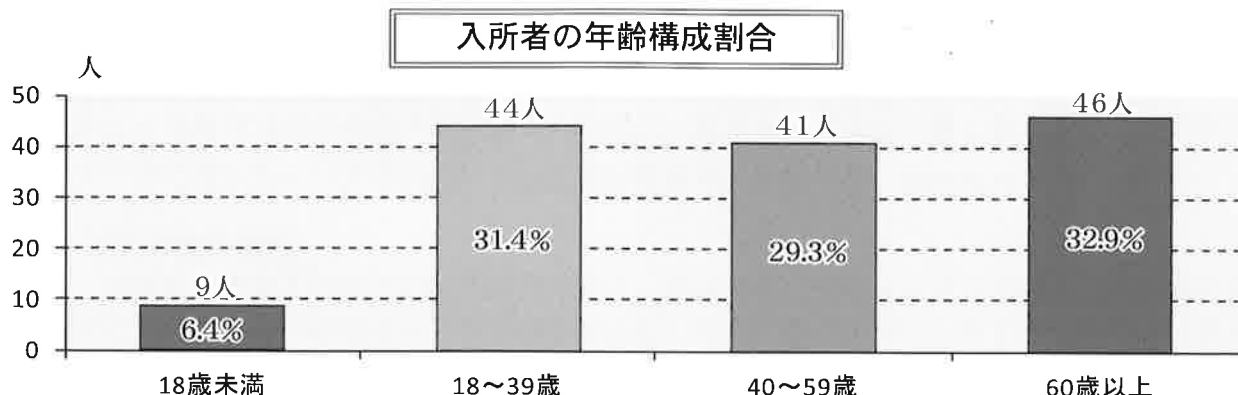
緊急入院（一般入院）ベッド5床は、ポストNICUベッドとして活用されている。また、在宅重症心身障害児者の急性期疾患や、医療度の高い入所待機者にも対応が可能な病床であり、在宅の重症心身障害児者の緊急的な支援の為に活用を行っている。

(2) 個別支援プログラムに基づく療育の実践

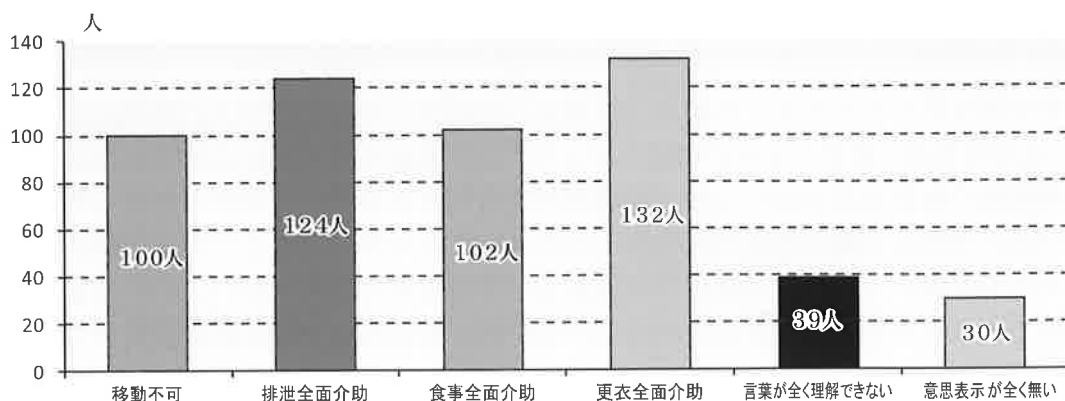
入所部門は、平均年齢47歳と高齢化が顕著であり、高齢化にともない入所者の医療度・介護度も高くなってきている。その為1人1人の特性に応じた医療・療育・介護が一層求められてきており、個別支援プログラムに沿った活動が必要とされている。今後さらに利用者本位の処遇内容となるよう、個別支援プログラムの充実に努めていく。

(3) 病床変更、人材対策

平成16年度以降、第1病棟と第3病棟は一般病床、第2病棟は療養病床という2つの異なる病床形態を取っていたが、医師の新規採用により、第2病棟の一般病床化を図った。また、今後は訪問看護、居宅介護、相談支援等在宅支援事業に必要な人員を確保・養成していき、次代のリーダーとなる人材の育成を積極的におこなっていく。



入所者の日常生活の自立度



2. 地域・在宅支援

(1) 外来診察（発達外来、リハビリ）

平成29年度の発達外来利用者数は年間延べ31,303人（124.2人/日）と、前年に比べて延べ利用者数では-2.5%、1日平均利用者数で-3.1人/日の微減となった。

発達外来利用者の内訳は、超・準超重症心身障害児者を含めた重症心身障害、発達障害（精神遅滞、自閉症、ADHD、発達性協調運動障害）、てんかんなど症例も広範にわたっている。また障害児者のリハビリ外来利用者数は、年間延べ22,359人と前年比-5.5%となったが、多くの利用者がリハビリに訪れた。

(2) 医療型短期入所20床の利用促進

医療型短期入所事業は、地域の在宅重症心身障害児者の在宅生活を維持するための生命線の事業であり、1日平均利用者数は17.7人（前年比-1.7%）、延べ利用者数は6,460人（前年比-112人）となった。これは、昨年と比較すると、今年度の1～2月が大雪であった為、利用者数は微減となったが、約6,500人/年の多くの在宅利用者が短期入所事業を利用した。平成30年度も平成29年度同様に積極的な受入を行い、地域の重症心身障害児者とご家族のQOL向上を図っていく。

(3) 中越圏域障害者地域生活支援センター事業、計画相談支援の強化

中越圏域障害者地域生活支援センター事業と、相談支援という専門性を有する県の委託事業として、平成29年度の相談件数は、訪問・電話を含め全体で332件、実人数161名（前年度451件、実人数250人）と件数、実相談者数ともに前年度より減少した。また、平成29年度で11年目を迎えた冬期リハビリは、冬期間降雪のためリハビリサービスを受けることが困難な魚沼・十日町在住の利用者に対し、週1回、理学療法士・作業療法士を派遣しリハビリを行うもので、期間中に56人（前年度40人）の利用があった。利用者からの要望がある限り、次年度も継続して派遣リハビリを行う予定である。また、平成25年度より開始した計画相談支援・障害児相談支援（長岡市委託）事業も、平成29年度は、相談件数789件（前年841件）、計画相談・障害児相談作成者実数248人（前年221人）であった。

(4) 通所3事業（本体通園センター、CS魚沼、CS県央）の現状と課題

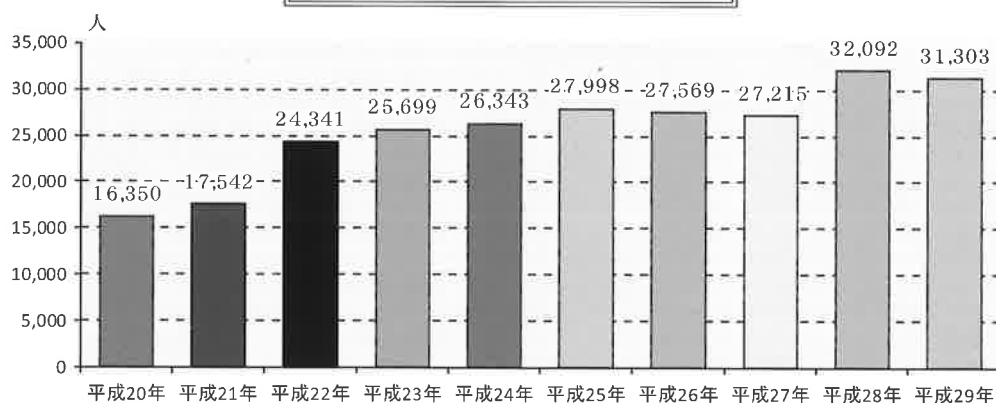
本体の通園センターは、長岡圏域を中心に柏崎や魚沼・県央圏域もカバーしており、成人を対象とした生活介護と、未就学児を対象としたグループ分けを行っている。

平成29年度は、全国の通園センター事業の「老舗」にふさわしく、利用者の発達段階に応じた個別支援計画を基に、他施設のモデルとなるような幅の広い活動を展開してきた。また障害者総合支援法の先駆的事業として平成19年度、魚沼市に開設したケアステーション魚沼、平成20年度、三条市に開設したケアステーション県央、ともに重症心身障害児者に限定した生活介護と一体的に運営している児童発達支援、放課後等デイサービス（いずれも定員20名/日）事業を行っている。平成29年度の両ケアステーション利用者数は、年間延べ7,540人（前年比-2.2%）と、前年比で微減となった。平成30年度は、魚沼は15人/日を、県央については18人/日を目標に利用拡大に努め、利用者やご家族のQOL向上を図るとともに、より地域性を重視した活動を目指したい。

(5) 居宅介護と訪問看護の推進

在宅系事業については、医療度の高い在宅重症心身障害児者の増加に伴い、需要が高まってきている。居宅介護実施回数は、平成29年度は639回（前年度543回）と、利用回数は大幅に増加している。また、平成29年2月から開始した訪問看護も、徐々に利用者が増えてきており今後は、需要に合わせて体制を整えていく予定である。

外来診療年間受診者数の推移



3. 安全で安心できる施設を目指して

(1) 防火防災体制の確立

各病棟にて毎月避難・消火の総合訓練を実施するとともに、10月に関連施設や地域住民、消防署等が参加しての総合合同防災訓練および防災講演会を崇徳厚生事業団内にて開催した。

(2) 安全衛生体制の確立

感染対策委員が中心となり、インフルエンザやノロウイルスなど伝染性疾患の園内感染防止、医療機器安全対策委員による医療機器・医薬品等の安全対策、また事故防止委員による事故防止等、各種委員会により園内の安全対策に努めた。

(3) 防犯体制の強化

本園を利用する利用者の安全確保の為に、平成28年に引続き平成29年度も、新潟県の助成により園内外へ監視カメラの設置を行った。また、職員研修で、さすまた等の防犯器具の取扱い方法の周知徹底を行った。

◇ 平成29年度 研究発表・論文発表 ◇

園外研究発表

| |
|--|
| 1) 小西 徹 講演「発達障害の理解と支援のありかた」 長岡薬剤師会 January 25, 2017 長岡 |
| 2) 小西 徹 講演「重症心身障害児者の在宅支援と発達障害」 魚沼小児医療を考える会 July 28, 2017 魚沼 |
| 3) 磯部直子, 米山恵理香, 倉重明美, 庭野百合子, 小西 徹 重症心身障害児(者)施設で経験した脳梗塞例 第43回 日本重症心身障害学会 September 29-30, 2017 仙台 |
| 4) 池田将巳, 徳永大輔, 中村 薫, 伊藤哲也, 影山隆司 経腸栄養剤変更による消化管機能の変化 第43回 日本重症心身障害学会 September 29-30, 2017 仙台 |
| 5) 三井田香, 丸山由香, 久保田いづみ, 影山隆司, 小西 徹 当園における新規抗てんかん薬の使用状況について 第43回 日本重症心身障害学会 September 29-30, 2017 仙台 |
| 6) 小西 徹 講演「発達障害の理解と支援のありかた」 長岡地区圏域別研修会 October 4, 2017 長岡 |
| 7) 平澤友子, 五十嵐美苗, 岩佐由香子, 小林隆一, 高橋 淳 表出がわかりにくい人への感覚刺激について 第28回 重症心身障害療育学会 October 19-20, 2017 横浜 |
| 8) 桑原 拓, 小林まどか, 小西 徹 短期入所利用の背景について 第28回 重症心身障害療育学会 October 19-20, 2017 横浜 |
| 9) 大野 武, 小西 徹, 影山隆司 ADHD、自閉症スペクトラム症に合併したてんかんについて 第21回 日本小児神経学会甲信越地方会 October 28-29, 2017 長野 |

論文発表

| |
|--|
| 1) 小西 徹 Automatism てんかん学用語辞典 日本てんかん学会 編, 診断と治療社 2017, p14-15 |
|--|

～園内研究～

| |
|---|
| 1) 田中智恵子 関淳 本間延江 内山素子 宮澤潤一 松永好子 体位交換が必要な重症心身障害児(者)における睡眠時 SpO ₂ の変動について |
| 2) 廣川優花 田中ビネー式知能検査 V と WISC -IV の IQ の差について |
| 3) 諸橋龍樹 西綾子 石田美枝子 高岳恵二 在宅障害者の親亡き後の生活について |
| 4) 松本さおり 廣川優花 過去5年間における当園外来の新患の受診状況の変化について |
| 5) 佐藤詩織 田中久美 五十嵐美苗 中野孝二 佐藤礼菜 安藤佳代子 機能低下した高齢者への日中活動の検討 |
| 6) 渡辺友梨 若杉英里香 関 貴子 中村 薫 育成スタッフ 影山隆司 星名 昇 てんかん発作と非てんかん発作の判別 |
| 7) 長谷川愛 病棟指導員 熊倉直美 入所を決めた家族の思いの聞き取り調査 |
| 8) 瀧澤伸孝 小林友子 阿久津太陽 阿部美智子 佐藤昌子 南雲由美 渡辺理恵 松井咲 黒島順子 水落貴子 意思をスムーズに伝えることでコミュニケーションを円滑にする |
| 9) 中村政浩 加藤友里 田中隆文 大塚裕人 遠山久美 2病棟における抑制の現状と、長岡療育園における今後の課題 |
| 10) 坂井剛 中村亨子 関根伸子 新野真也 反町仁美 小林江利子 斎藤サダ子 橋本奈津美 栗原朱美 高橋佳代子 ケアステーション県央の放課後利用者数の推移について |
| 11) 矢澤礼子 永井睦子 荒尾洋美 中山悦子 遠藤理恵 熊倉直美 通園利用者の栄養評価について |
| 12) 大嶋さよ子 訪問看護の実施状況 |